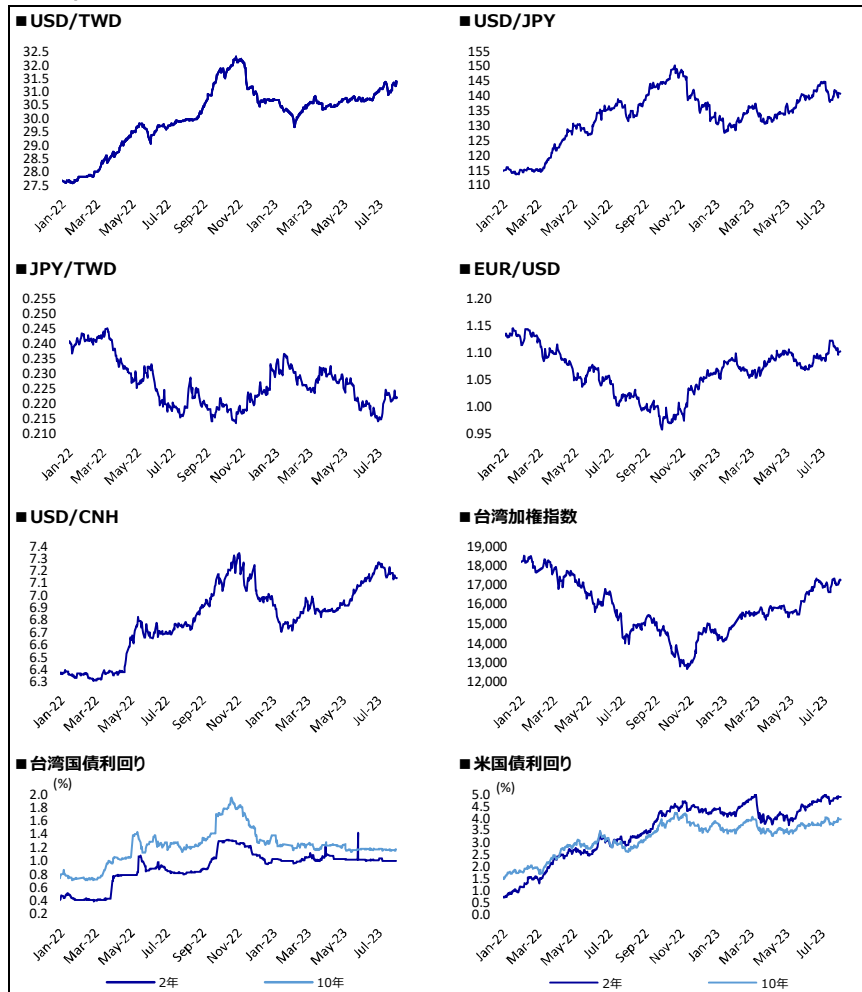


市場動向



先週の市場動向

■ USD/TWD
先週のドル/台湾ドルは上昇。週初7/24は31.280でオープン後、外国人投資家の台湾株売り越しと配当金の海外への送金により台湾ドル売りが優勢に。31.3台後半まで上昇するも輸出企業等のドル売りが入り、上値は押さえられ31.3台半ばに落ち着いた。7/25は台湾株が反発し、前週からの台湾ドル売りが一服し、31.3台前半で推移。7/26はFOMCの結果発表を控え、31.3台前半の狭いレンジでの推移が続いたが、外資の流入から台湾ドル買いが優勢となり、31.2台前半まで下落。7/27は台湾株が上昇すると一時31.156まで下落。しかし、輸入企業の高ドル買いや外国人投資家のドルを買い戻す動きが見られ、31.2台半ばに落ち着いた。7/28は前日の米経済指標の結果を受けてドル買いが優勢となり、一時31.419まで上昇。高値圏では輸出企業の高ドル買いが入り、上値を押さえたが、最終的には先週比0.5%ドル高台湾ドル安の31.390で先週の取引を終了。週間の外国人投資家の株式売り越し額は356.0億台湾ドル。

■ USD/JPY
先週のドル/円は下落。週初7/24は141.65でオープン後、141円台半ばで推移していたが、米金利の動きにつられて、一時140円台後半に下落する場面も見られた。7/25は米7月消費者信頼感指数が予想を上回るも、翌日にFOMCの政策発表を控え、レンジで推移。7/26はFOMCの前にポジション調整の動きか、140円台前半まで下落。FOMCでは予想通り、0.25%の利上げが決定されると140円台後半まで上昇。その後のパウエルFRB議長の会見では、慎重な姿勢が確認されると一時140円を割り込んだが、「2%インフレ、2025年頃まで達成しないだろう」との発言に140円台前半に値を戻した。7/27は139円台半ばまで下落するも堅調なアジア株につられて140円台に落ち着いた。その後は米第2四半期GDP、米6月耐久財受注等経済指標が予想より良好であったことを受け、ドル買いが強まり、141円台前半まで上昇。しかし、日銀がYCC修正案を議論との報道が伝わるとドル円は急落し、一時139円を割り込んだ。7/28は139円台半ばで推移していたが、日銀が据え置きとYCCの運用の柔軟化を発表すると、141.20まで急上昇後、138円台半ばまで急落。その後も乱高下しながら一時138.05まで下落したが、植田総裁の会見で日銀の粘り強い金融緩和姿勢を示すと円売りが優勢に。その後は再び高の展開となり、最終的に先週比0.5%ドル安円高の141.18で先週の取引を終了。

今週の見通し

■ USD/TWD 予想レンジ：31.150-31.500
今週は底値が堅いと見込む。月末月初の貿易実需の取引があるものの、台湾企業の配当金を受け取った外国人投資家の海外への送金需要もあり、底値は堅いであろう。

■ USD/JPY 予想レンジ：141.00-144.00
今週は底値が堅く推移するであろう。先週、FOMC、BOJと各中銀のスタンスが確認され、日米の金利差が開いた状況が続くと見込まれることから、再び円が売られると想定する。また、米経済のソフトランディングへの期待が高まる中、米7月雇用統計等重要経済指標の発表を控えており、米経済が好調を維持するが注目したい。

今週の予定

7/31 (MON)	
8/1 (TUE)	米6月JOLTS求人数、米7月ISM製造業景気指数
8/2 (WED)	米7月ADP雇用統計
8/3 (THU)	米7月ISM非製造業景気指数
8/4 (FRI)	米7月雇用統計

(Source) Thomson Reuters, Mizuho Bank

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。当資料に記載された内容は、事前連絡なしに変更されることがあります。投資に関する最終決定は、お客さまご自身の判断でなさるようお願いいたします。当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず、無断で引用、複製することを禁じます。